

# 中井だより

中井やまゆり園

## 令和5年度を迎えて

園長 菅野 大史

昨年は中井やまゆり園開設 50 年という節目の年でしたが、令和2年から続く新型コロナウイルス感染症の蔓延による日常生活の制限や、過去に発生していた、職員による利用者への虐待や不適切支援が明らかになるなど、50周年を皆さんとともに喜ぶことができなかつたことが本当に残念でした。

ただ、10月には規模は縮小したものの、3年ぶりに「中井やまゆり祭」を開催でき、利用者、ご家族・後見人、職員が一緒になって楽しむことができたのは本当に良かったと思っています。

新型コロナウイルス感染症については、5月からこれまでの2類相当から5類に移行され、外出制限等がなくなることとなりますが、当園においては、集団生活をしている上に、高齢の方や基礎疾患を抱えている方も多いためその対応は慎重に行う必要があると考えているところです。

また数多くの不適切な支援が明らかになり、そのうち現時点で9件が虐待として認定されたことについては、あらためてこの場を借りてお詫びいたします。不適切な支援に係る調査は今も進んでおりますが、県が設置した「中井やまゆり園改革プロジェクトチーム」により、なぜこのような事案が数多く発生したのかその要因の分析を行いながら、中井やまゆり園の支援の見直しが進められているところですので、ご理解いただければと思います。

こういった状況の中51年目を迎えた本年度、園の「運営方針」を「**地域で多くの人とのつながりを大切にしながら、利用者一人ひとりの人生を豊かなものにする**」と決めました。これは利用者さんが積極的に「地域」に出ていくことを意識したのですが、自宅やグループホームに利用者さんの生活の場を移すという意味ではないことをあらためてお伝えいたします。

私たち職員は、中井やまゆり園の支援の見直しを進める中で、(コロナ禍もありましたが)当園の利用者さんの世界があまりにも狭いということにあらためて気が付かされました。そして、利用者さん一人ひとりの人生を豊かなものにするためには、中井やまゆり園の中だけで生活が完結するのではなく、少しでも多くの地域の方々と園内外で関わりを持ち、利用者さんが多くの方々と知り合いになり、そして、多くの方々に利用者さんのことを知っていただくことが大切である、このように考えました。

利用者さんの生活の場は中井、日中活動はどんどん地域に出ていく、こういうことを進めていく中で、地域の中に利用者さんの仲間づくりが広がっていけば、と思っておりますので、ご家族・後見人の皆さんには「地域」という言葉に抵抗があるかもしれませんが、引き続き、ご理解・ご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症による日常生活の制限や虐待、不適切支援など、皆様方には引き続きご心配をおかけしておりますが、新たなスタートを切る、そんな1年にしてまいりますので、今後も、より一層のお力添えいただければと思います。